**【論点】**

**イギリス政府は高等教育をどのように捉え、財政支出を行っていると考えられるか？**

【論点の流れ】

◆この章では「金とマス化」という題名で、以下のことを確認してきた。

・高等教育の目的

・中央政府が、大学と高等教育に対する政治的文脈の重要性にどのように影響を与え、統制しているか

・21世紀における英国の大学が直面している重要な問題と、これらの問題が他の国々とどのように関連しているのかを理解し、ここで議論されない国々にどのように影響するのか

◆高等教育の目的

Coming to universal agreement on the purposes of higher education would be different at best depends on an individual’s or country’s political, philosophical and social perspectives.（p.74）

…世界的に高等教育の目的を一致させることは難しい。なぜなら、それは個人と国の政治的・哲学的・社会的な視点によるものであるからである。

⇒高等教育に対する公的支出が国によって異なるのは、その国の背景によって捉える目的が異なるから、であると考えられる。

◆本文では高等教育における資金に関する課題として、2つの対立する主張を挙げていた。

**◇公共投資がなされるべきだ、という主張**

Some argue that it benefits society as a whole with a workforce that has an enhanced level of knowledge and skill s and therefore it should be publicly funded.（p.65/l.27）

…高等教育は、高い知識と技能を持った労働力により社会全体に利益をもたらす。

BUT

There is an increase in mature students (those aged over 21) in Britain and Europe.（p.75/l.35）

…イギリスやヨーロッパでは、大人の学生（普通の入学年齢を越えた学生のこと。学部では21歳以上、大学院では25歳以上の学生を指す）が増加している

The increase in students holding down part-time, or even in some cases full-time jobs, while studying is not specific to the UK but is a worldwide issue.（p.75/l.41）

…パートタイム（あるいはフルタイムの場合も）の仕事をしながらの生徒の増加はイギリスだけではなく世界中の問題だ。

What about a mature student who has retired and chooses to study at university as part of his or her leisure activities out of interest? Is this different a young student who is studying for a future career?（p.65/l.38）

 …定年退職していたり、興味による余暇活動の一部として大学で学ぶことを選んだりする大人の学生はどうなのか。それは将来の職業のために学習している若い学生とは異なるのだろうか。

⇒生徒の多様化により大人も（年配の人も）大学に通うようになり、必ずしも卒業後に働く学生が大学で学んでいるとは限らなかったり、学業だけに専念する学生ばかりではなかったりする。高等教育が「社会全体に利益をもたらす」と言えるのか？

**◇大学に通う者が費用を払うべきだ、という主張**

Others believe that it is those who go to university who should pay the costs as they will benefit directly, generally entering graduate employment with a higher salary than those who do not have a degree.（p.65/l.29）

…個人に直接的な利益をもたらす（大抵の場合大卒後に就職するものは、学位を持たない者よりも高給である）。

⇒**本章の内容を踏まえるとマス化が進む現在において、イギリス政府は高等教育が、社会全体と個人のどちらに多くの利益をもたらしていると考えていて、財政支出を行っていると考えられるだろうか。**

◇経済発展のために高等教育への参加の拡大を図る

Universities in England, Wales and Scotland have undertaken activities to promote widening　participation under four broad headings（p.69）

…イングランド・ウェールズ・スコットランド大学は、参加の拡大を促進するための活動を試みた。

The British government’s commitment to expanding participation is partly based on research which shows that the economy will require an increase in people with higher-level skills.（p.69）

　…参加拡大のための英国政府の公約は、高いレベルの能力を持った人々が増えることが経済には必要であろうと示す調査にある程度基づいている。

◇大学教員の資格について

In most universities in Britain the qualification required to become a lecture is a higher degree, as in a masters or, increasingly, a doctorate.（p.71/l.7）

…英国の多くの大学では講師になるために必要な資格はより高い学位であり、それは修士あるいは博士号である。